

告辞

穏やかな風が新芽の香りを運び、暖かい春の訪れが感じられるこのよき日に、令和5年度の崇城大学大学院修了式・学位記授与式、ならびに卒業式・学位記授与式を挙げていただけますことは、教職員一同、喜びと感謝の念に堪えません。このたびは、5年ぶりに新型コロナによる行動規制が解除されたことから、ご来賓ならびに保護者の皆さまにもご臨席を賜り厚くお礼申し上げます。

まずは、工学、芸術、薬学、それぞれの大学院研究科を修了された皆さん。また、5学部卒業生の皆さん。本日の修了ならびに卒業、誠におめでとうございます。そして、これまで皆さんを励まし、支えてこられた保護者の皆さまにも、心よりお祝い申し上げます。ご子息・ご息女の立派に成長した姿をご覧になり、感慨もひとしおのことと思います。

さて、「博士」あるいは「修士」の学位を取得された大学院修了生の皆さん。コロナ禍の環境にあっても、諦めずにすばらしい研究成果を収められました。様々な課題を解決するために日夜研鑽を積み、その過程で新たな知を生み出し、高度な知識や専門性を身につけられたことは、修了生皆さんの逞しい成長のあかしです。本学にとりましても、この上なく誇りに思います。

また、栄えある「学士」の学位を取得された学部卒業生の皆さん。入学当初から新型コロナによるパンデミックの中で、まさに艱難辛苦に直面しながら大学生活を過ごされました。不慣れな遠隔授業を強いられるだけでなく、楽しみにしていたクラブやサークル活動、交友関係、海外研修、アルバイトなども制限される状況が長く続き、学業のモチベーションを維持することが大変難しかったに違いありません。昨年、新型コロナの5類移行に伴い、ようやく最後の1年間は本来の学生生活を取り戻せるようになりました。キャンパスライフの大半が遠隔と対面のハイブリッドな環境でしたが、卒業生の皆さんは逆境を乗り越えて、社会人基礎力や専門力とともに、大切な人間力も身につけてくれたように思います。コロナ禍での様々な経験は、これから長い人生を歩んで行く上で必ず役に立ちます。学生生活での苦労を教訓にして就職や進学など、次の新たなステージで活躍されることを期待しています。

今回の修了生と卒業生の中には、本学が推奨するグローバルな異文化交流に積極的に協力した外国人留学生も多くいます。日本語の習得、日常生活での習慣や価値観の違いなどに苦労したようですが、晴れて卒業を迎えられ、心より祝福したいと思います。将来にわたり、母国と日本との友好を育むような活躍を願っています。

ところで、今年の元日に発生した能登半島地震は、石川県を中心に甚大な被害をもたらし、世界中の人びとの心を痛めています。約8年前の熊本地震を上回

るマグニチュードの大地震により亡くなられた方々に謹んでお悔やみ申し上げますとともに、被災された多くの皆さまに心よりお見舞い申し上げます。このような地球規模の自然災害や異常気象などに加えて、約 2 年前に世界を震撼させたロシアによるウクライナ侵攻は、コロナ禍から回復しつつある国際経済を混乱させ、依然として世界秩序にマイナスの影響を与えています。さらに、昨年には、パレスチナ武装勢力とイスラエルとの間で激しい衝突が起こるなど、国際情勢は不透明かつ混迷の度合いを増しています。地震の被災地や荒廃した戦場の様子が映像で伝わるたびに、熊本地震のときそうであったように、若い皆さんのアグレッシブで力強い支援が創造的復興への鍵になると思っています。

一方で、人工知能 AI や、モノがインターネット経由で繋がる IoT の普及に伴い、Society5.0 のデジタル社会が到来しようとしています。チャット GPT、AI による画像生成や音声合成、メタバースに関わる IoT 技術などは、今後さらに用途が拡大していくと思われます。人びとの創造活動を模倣する生成 AI が既存の産業構造や社会の価値観を大きく変えつつある現在、日本は明治維新と戦後に続く「3 番目の大改革時代」を迎えているとも言われます。実際に、アルテミス計画による有人宇宙旅行、あるいは輸送システムとして自動操縦の空飛ぶ車や超電導リニアなどが実用化される社会が目前に迫っています。また、熊本では、世界最大の半導体受託製造企業である台湾の TSMC 第 1 工場が今年中に本格稼働します。「産業のコメ」とも言われる半導体製造のすそ野は広く、TSMC の動向は国内産業の歴史的な社会変革を導くことになるでしょう。

このように、世界情勢の変化が激しく将来の予測が困難な近未来社会は、まさに若者の斬新でチャレンジングな活動を求めています。そこで、修了生と卒業生の皆さんには、本学で培った実学教育とパイオニア精神のもと、グローバルな複合的視点に立って、新天地での様々な未知の問題に果敢に挑戦してほしいと願っています。その際に、組織や対人関係を大切にしながら、自ら進んで課題を発見し、前向きな解決に心がけてください。先ほど述べた先端技術のイノベーションによりさらなる価値を創り出し、人類の平和で豊かな未来社会を築いていくのは皆さんです。これから社会人あるいは大学院生としての新生活が始まりますが、今後は同窓生の立場から本学にも温かい応援や励ましをお願いします。

ここで、激動の時代に船出する皆さんへの餞に、次のアドバイスを贈ります。それは、「人びととの出会いを糧にし、自分自身を磨き続けること」です。人生には多くの出会いや別れがある中で、大きな影響を与える人が必ず現れます。例え苦手を感じる人であっても、人生の反面教師となり人間的な成長をもたらしてくれます。そのため、相手の話に耳を傾け、様々な人と積極的にコミュニケーションしてみてください。皆さんは、本学の学生生活においても、掛け替えのない恩師や友人に巡り会えたことと思います。そのような人びととの出会いを通

して得た学びを生かし、自身の独創性や創造力といった資質を磨いてください。

スペインにあるサグラダ・ファミリア大聖堂の建築家として有名なアントニ・ガウディは、「オリジナリティーとは、オリジンに戻る」と述べています。独創性は自分だけの力で生み出せるものではなく、元々あるものをさらに磨き高めた結果として生まれます。仕事においても、まず先人の努力の集積があり、そこから新しいアイデアが得られます。何か壁にぶつかったときには、最初の思いなど、原点を冷静に振り返ってみることが大切です。日常の会話から人びとの生きる姿勢や考え方を理解することで、壁を乗り越えるヒントが見つかるはず。皆さんが人間力を磨き続け、国内外の社会の発展に貢献されることを期待しています。

最後になりますが、修了生と卒業生の皆さんは限りない可能性を秘めており、これからの活躍が大いに楽しみです。教職員一同、いつの日か皆さんに再会できるのを願っています。今後、皆さんが心身ともに健康で、充実した幸せな日々を過ごされることを祈念し、告辞といたします。

令和6年3月20日
崇城大学学長 小野長門